

民医連厚生事業協

共済だより

2022年
3月
第167号

発行所●全日本民医連厚生事業協同組合

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4
平和と労働センター6F
TEL03-5842-5650 FAX03-5842-5652
E-メール:k-tayori@min-iren.gr.jp
(共済だより用)
kyousai@min-iren.gr.jp
(厚生事業協宛)
ホームページ:https://min-jigyo.or.jp



いわさきちひろ「わらびを持つ少女」(『あかまんまとうげ』(童心社)より) 1972年
(14ページに作品のコメントと美術館のご案内をしています)

主な記事

- 伝えていきたい私の民医連¹³⁹ 元神奈川民医連会長 川崎 博通(下)
- いま、沖縄に連帯して 勝つまであきらめない
- いま、なぜ憲法改悪なのか パートII⁹⁸ 若手弁護士の会
- 縮図からみる世界⁴⁶ ジョーや飛雄馬が/斎藤 貴男
- 各地の共済企画 オンライン企画で「みんなを元気に」/神奈川民医連共済連絡会
- 私の趣味・こだわり紹介¹⁶ ディズニー切り絵/埼玉・さあみのママ

2021年度
スポーツ文化企画
のお知らせ

<https://www.min-jigyo.or.jp>



ログイン 2021
パスワード 1192
(半角数字)

携帯電話でご応募の方は
こちらからどうぞ
応募先のメールアドレスが
読みとれます



第20回写真コンテスト【3月末締切】 テーマ:「民医連」 応募者にもれなく1000円のクオカード

前期慰労金の現況報告書を4月中旬に発送します。5月になっても届かない場合はご連絡ください(03-3814-5044)。
受付期間は5・6月です。しめきりは6月30日です。

1. マスメディアの「弱体化」

市民が政治を厳しくチェックし、それぞれの考えを発信し、議論や思索を深め、最終的には投票行動へとつなげていく——この民主主義の歯車をまわしていく上で、大きな役割を果たしているのが、取材し報道するマスメディアです。しかしマスメディアの「弱体化」を感じざるを得ない出来事が相次いでおり、立憲主義とも絡めてお話しようと思います。

2. 読売大阪と大阪府の「協定」

まずは、読売新聞大阪本社が大阪府と「包括連携協定」を結んだ件です。地域の活性化や府民サービスの向上が目的だといいますが、読売新聞の媒体やSNSを通じて大阪府の情報発信に協力することが予定されており、多かれ少なかれ読売新聞が大阪府の「広報」を担うことになるわけです。

さらに、「地域活性化」の取り組みとして、「2025年大阪・関西万博の開催に向けた協力」も盛り込まれていることには特に警戒が必要です。万博開催は、その跡地と隣接する土地をカジノを含む統合型リゾート（IR）として活用するという計画と切っても切れない関係にあります。カジノ誘致

シリーズ

いま、なぜ憲法改悪なのか パートII

⑨8 権力に斬りこめないマスメディア

～ペンが弱まれば民主主義の未来もない～



「明日の自由を守る若手弁護士の会」共同代表
公式ブログ <https://www.asuno-jiyuu.com/>

黒澤いつき



の是非は大きな政治問題であり、反対する市民・府民は少なくありません。また、カジノのインフラ整備には税金を使わないと明言してきた大阪市長の松井氏が、土壌汚染対策に790億円の前算投入を決め、万博跡地の土壌汚染対策の前算も合わせれば1578億円の前算が使われることになるという試算が出たばかりです。今、「万博の開催に向けた」大阪府の情報発信を担った読売新聞が、カジノ誘致や巨額の税金投入について批判的に問題点を報じたり、反対する市民たちの声を取り上げて議論を活性化させることが果たしてできるでしょうか？

冒頭でも書いたとおり、権力とマスメディアは、本来、緊張関係にあります。マスメディアが国民の知る権利に奉仕し、権力を批判的な目で監視することは、「国民が権力を憲法でしぼり、憲法を破る権力を許さない」立憲主義を正常に動かす上で必須です。その両者の「提携」が「馴れ合い」になり、大阪府の（特定政党の代表である大阪府知事や大阪市長の）広報に成り下がらないか強く懸念されます。

3. 石原慎太郎氏のヘイト発言は「石原節」？

今一つは、石原慎太郎氏の死去に際

して、石原氏の生前の言動についてまとめた新聞記事の多くが、「歯に衣着せぬ「石原節」」「ときに物議をかもした」などという表現で覆われていたことで「閉経して子どもを産めない女が生きていくのは無駄」「三国人」「LGBTの方々を指して」どこか足りない感じがする」「障がい者を指して」ああいう人ってのは人格あるのかね」：強烈な差別と優生思想に満ちた発言の数々は、たとえ同氏が亡くなったとしても決して許されるものではありません。「死者に鞭打つな」などとうやむやにしようとするカルチャーに流されることなく、厳しく批判的に指摘することがマスメディアに求められているにもかかわらず、曖昧な言葉で紹介し、事実上石原氏の言動を容認した形になっていることに失望せざるを得ません。

そもそもそれを許さない差別だと認識できるだけの人権意識が欠けているのか、あるいは差別だと指摘する使命感が無いのか。どちらにせよ、その報道を受け取る市民社会にとっては有害と言わざるを得ません。おかしな報道は批判し、政治に斬りこんだ優れた記事は褒め、批判的な目で権力を監視する健全なマスメディアを育てることも私たち市民の大事な役割だとあらためて気づかされます。

縮図からみる世界【46】

齋藤 貴男



ジョーや飛雄馬が

東京都内を走る地下鉄の車内や駅構内に、往年の名作漫画『あしたのジョー』と、『巨人の星』のポスターが溢れている。前者は朝のラッシュ時間帯の混雑緩和を目的とする「東西線オプティークプロジェクト」、後者はそれとも関係する乗車ポイントサービス「メトポ」の登録促進を、それぞれ図るキャンペーン。

昨年7月にスタートし、この3月末まで続けられる。とりわけ中高年世代に訴求したい狙いは、はたしてかなりの成果を上げていると聞く。

矢吹丈や星飛雄馬が少年誌やテレビ画面で躍動したのは1960年代後半から70年代初めにかけてのことだ。今年64歳になる私も大いに熱狂し、ついにはどちらの原作をも手がけていた故・梶原一騎氏の伝記まで書いた（『夕やけを見ていた男 評伝梶原一騎』新潮社、1995年。現在は『あしたのジョー』と梶原一騎の奇跡』と改題して朝日文庫）。

それだけに悲しい。飛雄馬は「ポイント」の損得ごときで動く男ではなかったし、ジョーもまた、お上の意向の伝令役になどなるはずがないからである。

我こそは作品の理解者だと自負しているせいばかりでもない、と思いたい。読者なら誰だつてわかるはずだ、と。それなのに――。

実は初めてのことでもなかった。矢吹丈が日本生命のテレビCMに起用されたのは1994年。飛雄馬は2012年に、auのスマートフォン家族割引のCMで、タレントの剛力彩芽さんに「一人でもおトク、家族みんなでもっとおトク!」と説得されて感動し、滝のような涙を流していた…。

他にも同工異曲の類似CMがいくつもあった。共通しているのは、彼らに本来の男っぽさや野性とは対極にある小狡さ、卑しさが与えられてしまっていること。いわゆる「ミスマッチ」の「妙」というやつだ。どうだ面白いだろう、と押しつけがましい。版元の講談社は近年、こういった漫画キャラクターのマネタイズにことのほか熱心である。

関係者たちが納得して成立している現実である以上、今さらこれ以上の何事かを主張しようとは思わない。語り過ぎてオタクの独りよがりみたいに見られるのが心外だということもあるけれど。

ジョーや飛雄馬が、すでに完結した作品であることがせめてもの救いか。連載中の作品の登場人物たちが同様の調子でCMに使われていくと、作品自体がコマーシャルにされてしまいかねない。あまりに怖いことである。

齋藤 貴男（さいとう たかお）

1958年東京生まれ。早稲田大学商学部卒。英国パーミンガム大学大学院修了。主な著書に『機会不平等』『国民のしつけ方』『戦争経済大国』『驕る権力、煽るメディア』『決定版 消費税のカラクリ』『いちばんたいせつなもの』など。



気が早いですが、早く雪がとけて春になって欲しいです。ツルツル路面で転ぶ心配もなくなりますし。
〔北海道・勤医協苫小牧病院・町田 桂〕